

『ふかくたのみまいらせる』ということ』

松原 智晃

先日「ゲートキーパー・クルー講座」という講座に参加させていただき、自殺やその家族の思いを聴いていく機会をいただきました。

そのとき私は、あるおばちゃんの口癖を思い出しておりました。

人が言う愚痴や不満を「ほおう ほおう」とうなずきながら聞き入り、解決策を伝えるでもなく、話しが終わるまで聴き、最後にひとこと言うのです。「仕方がねえわぁ」と…。「諦めなさい」という意味の響きは微塵もなく、「我が身の事として引き受けなさい」と聞こえてくるのです。

愚痴や不満や不幸と思うところを、ポンと阿弥陀さまの前にひとかたまりにしておまかせして、「なまんだぶ なまんだぶ」とたのみまいらせてゆく日が続けてまいりますと、やがて、「仕方がねえわぁ」と聞こえてくるような気がします。愚痴を言わない自分や不幸ではない自分になってゆくのではなく、「仕方がねえわぁ」とすべてを引き受ける自分に生まれ変わってゆくのです。すべてを引き受けることのできる自分に生まれ変わりますと、必ず生きていく力が湧き起こってまいります。

生きていく力が湧き起こったという喜びは、「なまんだぶ なまんだぶ」と、「ねてもさめても、いのちのあらんかぎり、称名念仏」していく私になるでしょう。

そういう私を阿弥陀さまは、ますます生きていく力が必ず湧き起こるよう、また救ってくださいます。